

1 自己評価及び第三者評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

| | | | |
|---------|-----------------|------------|------------|
| 事業所番号 | 2872300419 | | |
| 法人名 | 有限会社 豊地質 | | |
| 事業所名 | グループホーム ゆたかの郷 | | |
| 所在地 | 兵庫県三木市宿原1263-86 | | |
| 自己評価作成日 | 平成23年6月19日 | 評価結果市町村受理日 | 2012年3月26日 |

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

| | |
|----------|---|
| 基本情報リンク先 | http://www.hyogo-kai.go.com/ |
|----------|---|

【評価機関概要(評価機関記入)】

| | | | |
|-------|---------------------|--|--|
| 評価機関名 | 特定非営利活動法人福祉市民ネット・川西 | | |
| 所在地 | 兵庫県川西市中央町8-8-104 | | |
| 訪問調査日 | 平成23年6月24日 | | |

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

1、敷地内の菜園や畑で、無農薬野菜をつくっている点、食材として提供しています。
 2、毎年クリスマスリースを、職員と入居者全員で協力して作り(300個位)、ご家族、近隣、幼稚園、他の施設、病院、支援センター、市長室などいろいろなところにプレゼントしています。
 3、以前、運動会の玉入れで使用する紅白のお手玉を、市内の幼稚園にプレゼントしたことがあったので、今年は、東日本大震災の被害にあわれた幼稚園、小学校に寄付するために、連日、入居者と職員が協力して作っています。

【第三者評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

三木市郊外の住宅地にある「ゆたかの郷」では、屋外で野菜や花、鶏、屋内で魚を世話をして、管理者夫婦と利用者が共に、育てる喜びを身近に感じながら毎日を送っている。職員は定着しており、管理者を中心に家庭的雰囲気の中で利用者個々にきめ細かい対応がなされている。介護支援専門員の知識や提案を積極的に業務に取り入れ、利用者の重度化にも対応できる新しい体制作りが進んでいる。以前は外出は全員一緒に行きたいと考えていたが、最近は心身機能の低下に伴い少人数の外出も始めている。畑で収穫した野菜や卵、取り寄せの食材を中心に、季節感のある食事が提供されており、利用者にとって一番楽しみの時間であり、エネルギーの源になっている。今後は事業所の理念である人権の尊重に立ち返り、身体拘束、重度化の指針等、更なる検討がなされることを期待したい。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

| 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | | 項目 | | 取り組みの成果 ↓該当するものに○印 | |
|----|--|-----------------------|---|----|---|-----------------------|---|
| 56 | 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない | 63 | 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19) | ○ | 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない |
| 57 | 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38) | ○ | 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない | 64 | 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20) | ○ | 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない |
| 58 | 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 65 | 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4) | ○ | 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない |
| 59 | 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 66 | 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12) | ○ | 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 60 | 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 67 | 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない |
| 61 | 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | 68 | 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う | ○ | 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない |
| 62 | 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28) | ○ | 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない | | | | |

自己評価および第三者評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

| 自己 | 第三者 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|--------------------|-----|---|---|---|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| I. 理念に基づく運営 | | | | | |
| 1 | (1) | ○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている | 地域社会とのつながりを大切にしており。月2回程度、近隣の方々が、演奏会を行ってくださり、徐々に参加される方が多くなっています。 | 「家庭的な環境のもと、利用者の安心と尊厳のある生活を支援する」理念を掲げ、毎日のミーティングで理念をもとに利用者の課題を検討している。羞恥心へ配慮した介助や、役割を持った生活の提供を通して理念の実践に努めている。 | |
| 2 | (2) | ○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している | 職員は、近隣住民への日常的なあいさつなどを積極的に行い、地域の美化のため、ゴミ拾いや、地域の花壇の管理を行っています。 | 事業所は近隣住民と挨拶や野菜や花の交換、花壇の管理等を通して、日常的な交流をしている。大正琴の演奏や共に歌を歌ったり、おしゃべりしたり近隣の楽しい交流もある。管理者は自治会主催の認知症理解の勉強会に出席し、相談にのっている。 | |
| 3 | | ○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている | 地域のボランティアの方々との定期的な演奏会での入居者との交流を通して、認知症の方に対する理解を深めていただき、また支援についての相談等を行っています。 | | |
| 4 | (3) | ○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている | ご家族や、地域の方々の意見を参考に、職員全員で話し合い実践に生かしています。 | 地域包括支援センター、民生委員、家族代表、地域住民、事業所職員が参加し定期的に開催。包括から熱中症等の情報提供、家族から地域とのつながりについての質問、民生委員から夏祭りの提案等が出された。事業所から今回被災したグループホームへの支援活動参加の報告もされている。 | |
| 5 | (4) | ○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる | 定期的な訪問、相談などを行っています。 | 重要事項説明書、契約書の見直しの際、市の担当者に相談し、助言をもとに改正を行った。高齢者ケア研究会、グループホーム部会で市の関係者と意見交換ができています。 | |
| 6 | (5) | ○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる | 週に1度会議を行い、身体拘束の解除について話し合うなど、身体拘束をしないケアに向けて取り組んでいます。 | 事業所では他に方法が無いと判断して、安全のため、期間、時間帯を決め身体拘束をしている。毎週職員間で経過観察を行い、支援方法を検討している。グループホーム出入り口の施錠も行っている。 | 身体拘束について、専門職に相談する等の再検討を望みたい。やむを得ない拘束かもしれないが、他の入居者への影響等も再考し、拘束が当たり前にならないよう取り組まれることを望みたい。 |
| 7 | (6) | ○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている | 職員全員が人権を尊重する旨を理解しており、アットホームなホーム作りに努めています。 | ケアマネジャーが外部研修を受講し、職員へ口頭で伝えている。言葉遣いにも注意している。管理者夫婦の配慮で、職員は夜勤がなく、家庭優先で休みも取りやすい勤務体制になっている。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|---|---|--|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 8 | (7) | ○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している | ミーティングで、パンフレット等を使用し、協議しています。 | ケアマネジャーが制度について学び、ミーティングで職員に伝えている。以前制度を利用していた入居者がいたので、制度については理解している。パンフレットは準備し、必要に応じて活用できるよう支援している。 | 今後は契約時に制度について説明をされてはいいかがか。 |
| 9 | (8) | ○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている | 十分な時間を持ち、説明しながら行っています。 | 重要事項説明書をもとに、利用料金、ホームでの生活等、契約するに当たって気になる点をまとめた利用の資料と一緒に、十分時間をかけて納得いくよう説明している。契約に至るまで、見学、体験してもらい、何度か面談を行っている。 | |
| 10 | (9) | ○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている | 入居者とは常に、コミュニケーションを図り、家族等とは、花便りや手紙、電話等で密に連絡をとり、意見を運営に反映するようにしています。 | 利用者、家族とは、日常的に話す機会を多く持つようにしており、信頼関係ができ、安心して任せられている。特に運営に反映するような意見は出ていない。 | 家族等同士で話し合う機会を作り、出てきた意見を検討する等新しい意見交換の場を設けてはいいかがか。 |
| 11 | (10) | ○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている | 毎朝のミーティングで、意見交換を行い、取り入れています。 | 外出の希望に対して、個別外出を取り入れたり、記録・報告の書類整備の意見が出され、管理者と話し合いを重ね、改善の方向へ進んでいる。 | |
| 12 | | ○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている | 毎朝のミーティングには必ず出席して、職員の現状と意見の把握して、福祉用具の購入を検討する等、職場環境の向上に努めています。 | | |
| 13 | | ○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている | 研修を行っている事業所から、研修開催に関する情報をファクスで受け入れる体制をとっており、情報が届いたときには、職員に研修の参加を勧めています。 | | |
| 14 | | ○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている | 三木市の高齢者ケア研究会に登録、勉強会に参加しております。 | | |

| 自己 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------|--|--|---|-------------------|
| | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援 | | | | |
| 15 | ○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている | 入居希望者の面会時、入居時の不安を少しでも軽減できるように、必ず面会は職員2名で行い、より多くの情報収集ができるよう努めています。 | | |
| 16 | ○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている | 入居前に出来る限りの時間をとって、家族との面会を重ね、情報収集を行いながら、ホームの生活等を説明し、信頼関係づくりに努めています。 | | |
| 17 | ○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている | 面会などで、得られた情報をもとに、その方にとって最も適切なサービスは何かを職員間で話し合っています。 | | |
| 18 | ○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている | 掃除や縫いもの等を行う時は、必ず職員と一緒に、また、ティータイムも職員は入居者の輪の中に入る等して、関係性の向上に努めています。 | | |
| 19 | ○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている | 家族に電話したときに、必ず本人に代わり会話をさせていただくようにして関係性の維持に努めており、また、何事をする際にも事後承諾ではなく、事前に家族に説明をして、話し合い決定をしています。 | | |
| 20 | (11) ○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている | 馴染みの人と、ご縁があり再会された時は、電話をする、面会に行く等して、関係を大切にする支援に努めています。 | 家族からの聞き取りや、本人の話の中から出てきた言葉をもとに、馴染みの関係の把握に努めている。昔なじみとの手紙や電話の取次ぎ、以前住んでいた地域の敬老会への参加等馴染みの場や人との関係継続を支援している。 | |
| 21 | ○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている | 職員全員で、入居者同士の関係の情報を共有して、食堂の席順を考慮する等、孤立しないように支援しています。 | | |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|------------------------------------|---------|--|---|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 22 | | ○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている | 退居された方の情報収集を常に心がけ、情報を得た時には、電話をするなどして、関係性を大切にしています。 | | |
| Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント | | | | | |
| 23 | (12) | ○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している | 介護計画を作成するときは、必ず本人の希望、意向を確認するように努め、困難な場合は、本人の日頃の様子をよく観察して情報収集を行い、職員全員で検討しています。 | 生活歴や「ふとでた言葉」をメモしておき、本人の思いや意向の把握の参考にしている。把握困難な場合は顔色や表情等をしっかり観察して、本人本位に検討している。 | |
| 24 | | ○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている | 本人との会話や家族の面会の際の思い出話を傾聴し、これまでの暮らしの把握に努めています。 | | |
| 25 | | ○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている | 職員全員で、情報を共有して把握に努めております。 | | |
| 26 | (13) | ○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している | 本人、家族、主治医、職員全員で話し合い介護計画を作成しています。 | 本人・家族と話し合い、医師、リハビリ療法士の意見をもとにミーティングで検討し、介護計画を作成。計画を平易な文章で説明して家族等へ郵送している。介護する側に都合の良い計画にならないよう、利用者のよい点を伸ばせるポジティブな計画になるよう努めている。 | |
| 27 | | ○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている | 介護日誌は毎日記入し、毎朝ミーティングを行い情報を共有しています。 | | |
| 28 | | ○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる | 他の事業所と情報交換する等して、さまざまなニーズに柔軟に対応できるよう努めています。 | | |

| 自己 | 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 29 | | ○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している | 地域ボランティアの方々や他の事業所と情報交換し、地域資源の把握に努めています。 | | |
| 30 | (14) | ○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している | 希望のかかりつけ医との関係が途切れないように、交通手段がない方には、可能な限り送迎を行い、また、かかりつけ医と事業所が協力して、本人に快適な生活を提供できるように、情報提供用紙の提出や必要な時は、受診の付き添いをしています。 | 入居前からのかかりつけ医の受診は家族が同伴する。又ホームでの情報が必要なときは、家族と共に職員は必ず同行している。2週間毎に事業所の協力医の往診があり、必要な医療が受けられるように支援している。 | |
| 31 | | ○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している | 定期的に来られる訪問看護師に、日常の関わりの中でとらえた情報や気づき、素朴な疑問などを相談して、適切な看護を受けられるように支援しています。 | | |
| 32 | (15) | ○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。 | 入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、必ず職員が付き添い病院関係者との情報交換、相談をしています。また、定期的にあいさつ回りをし、病院関係者との関係づくりを行っています。 | 日常の状態を徹底把握し、早期発見を心がけている。又入院の時はできるだけ早期退院に向け、担当医、看護師との情報交換も密に行って連携に努めている。 | |
| 33 | (16) | ○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる | 現時点では、本人、家族との信頼関係での支援を行っていますが、事業所と地域の関係者がチームで支援できる体制づくりをしていきます。 | 入居以外にも、常にその都度家族と話し合いを重ね本人、家族を重視し情報交換や関係機関との連携を通じた取り組みの中で、今看取りについて体制作りを考えている。 | |
| 34 | | ○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている | 定期的に応急手当の勉強会、初期対応の訓練を行い、急変時、緊急時の対処方法表を、職員の目に付くところに設置しています。 | | |
| 35 | (17) | ○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている | 定期的避難訓練を行い、近隣住民へも災害時の協力を要請して、緊急連絡網に電話番号を記載させていただいています。また、近隣住民に参加していただき、消防署員による災害時の対応の勉強会を行いました。 | 年2回の消防訓練は実施。それ以外にも避難の方法、指導も受けたり勉強会もしている。近隣の協力で自動通報装置が消防署と近所2軒にもつながるように設定されている。利用者のお昼寝を夜間想定とし、夜勤2人の訓練も行った。非常口には全員が乗車可能な夜間脱出用の車も常備されている。 | |

| 自己 | 者 第三 | 項 目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----------------------------------|------|--|--|---|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援 | | | | | |
| 36 | (18) | ○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている | 職員間で、入居者の話をする時は、イニシャルで入居者を呼ぶ、排泄の介助の際、周りの入居者に聞かれないように、席を離れてから声かけをするなど、誇りやプライバシーを損ねない対応を心がけています。 | 人生の先輩であると常時心がけて、尊重とプライバシーの確保に意識した呼び方、声かけの仕方などミーティングを通じて共有し、注意し合うように努めている。 | |
| 37 | | ○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている | 本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように、何か行動を起こそうとする時は、とりあえず見守りをするよう心がけています。 | | |
| 38 | | ○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している | 掃除等の作業を行う時、参加に消極的な場合は、無理に参加を促さず、本人が自発的に参加してくるまで見守りをする等、一人ひとりのペースを大切に支援に努めています。 | | |
| 39 | | ○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している | 衣服を数枚用意して、本人に選んでもらう等、その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援しています。 | | |
| 40 | (19) | ○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている | 食事が楽しみなものになるように、1人ひとりが出来ることを役割分担して、台拭き、お箸配り、配膳、お茶入れ等を、声かけと見守りで行っています。 | 手作りの野菜や取りよせの産地直送の品々など食材は豊かである。盛り付け等、準備の段階でできることを職員と一緒にしてとても楽しい活動となっている。職員も利用者と共に食事ができている。 | |
| 41 | | ○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている | 職員全員で情報を共有して、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた、食事内容、水分摂取量を提供しています。 | | |
| 42 | | ○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている | 毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしています。 | | |

| 自己 | 者三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|------|---|---|--|---|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 43 | (20) | ○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている | 失禁される入居者は、排泄パターンを把握して、失禁する前に、トイレ誘導する等、排泄の失敗やおむつの使用を減らすよう支援しています。 | 日中は排泄リズムを把握してトイレ誘導を行い、排泄の自立に努めている。夜間も定期的に誘導し、トイレでの排泄支援を行っている。清拭や洗浄を心がけ清潔保持に努めている。 | |
| 44 | | ○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる | 食事は野菜を中心にした献立にしており、朝、夕のテレビ体操、掃除等の生活リハで予防に取り組んでいます。 | | |
| 45 | (21) | ○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている | 曜日と時間帯は決めています。入浴時間は本人の意思を尊重しています。不定期ですが、温泉施設に行き、入浴を楽しめる機会をつくっています。 | 入浴は月、金週2回、夏場だけ水曜日を追加して週3回で時間帯も決めている。温泉施設に出かけることもある。 | |
| 46 | | ○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している | 夜間の就寝時間は各自異なる為、眠たくない方は、職員付き添いでリビングで過ごしていただくなど、安心して気持ちよく眠れるよう支援しています。 | | |
| 47 | | ○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている | 入居者には服薬時、説明をし、各自の服薬表を、ファイルして、職員がいつでも確認できる場所に保管しています。 | | |
| 48 | | ○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている | 掃除等の生活リハを行う時は、できることできないことを把握して、一人ひとりができることを役割分担し、嗜好品、楽しみごとは入居者や家族の会話を傾聴して、提供できるよう支援しています。 | | |
| 49 | (22) | ○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している | 可能な方は、家族のもとへの送迎を行ったり、家族と外出していただいたりしています。困難な方は、ホームのイベントとして、お花見に行くなどの支援をしています。 | 事業所所有の別荘へ出かけ、庭の散策や畑でじゃがいも堀りをするなど屋外活動を楽しみ、時にはホームイベントとしてお花見をする。利用者はドライブを兼ねて温泉や外食にも出かける支援がある。 | 感覚刺激の機会として短時間でも戸外に出るように個別の支援を工夫されてはいかがでしょうか。重度化している場合でも本人に合わせた移動方法の配慮をしながら、一人ひとりが外出を楽しめる支援に期待したい。 |

| 自己 | 者 第三 | 項目 | 自己評価 | 外部評価 | |
|----|---------|--|--|--|-------------------|
| | | | 実践状況 | 実践状況 | 次のステップに向けて期待したい内容 |
| 50 | | ○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している | 美容室等に行ったときなどは、職員が介助しながら、本人にお支払いいただくようにしています。 | | |
| 51 | | ○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている | 封筒や便箋の要望があれば、お渡しして、職員が投函しています。電話は要望のままかけられるようにしており、ご自分でかけることが困難な方には、職員がダイヤルする等の介助をして、かけられています。 | | |
| 52 | (23) | ○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている | 共用の空間は、入居者が不快や混乱をまねかないように備品の配置を考慮し、窓の外に鯉のぼりを飾る等して、季節感を採り入れ、居心地よく過ごせるような工夫をしています。 | 利用者の自宅の延長としての共用空間の玄関前は美しい花や樹が植えられ、窓の外には緑のカーテンとしてにがうりも有効活用されている。又部屋の温度もエアコンで良好に保ち、居心地良く過ごせる工夫がある。 | |
| 53 | | ○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている | リビングとダイニングキッチンにそれぞれ、イスがあるので、1人ひとりが思い思いに過ごせるようになっています。 | | |
| 54 | (24) | ○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている | 所持品を持ちこまれている方は少ないのですが、観葉植物を置いたり、リースの壁飾りをする等、居心地よく過ごせるような工夫をしています。 | 所持品の持ち込みは最小限ですが、お仏壇などの持込みや、美しい作品を壁飾りとしている。明るく暖かい雰囲気の中で居心地良く過ごせる工夫をしている。 | |
| 55 | | ○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している | 手すりを各所に設け、なるべく見守りで自立歩行をしていただいています。他にも、トイレに大きな標識をして、トイレの場所を覚えていただくようにしています。 | | |